菅波　茂 氏

「救える命があればどこまでも～国境を越える福祉」

岡山で1984年にＡＭＤＡを設立した。多国籍医師団という形をとり、中南米、アジア、アフリカなど世界30支部から被災地へ駆けつけている。

世界で、物の見方、考え方が違う人たちがどうやったら共存共栄できるのか。相互扶助だ。友達が困った時、一緒に問題解決することによって、途中で自分にない素晴らしいものを相手に見いだした時には尊敬の念を覚える。そしてどんなに苦しくても相手が逃げださないという時には信頼の念が起こる。尊敬と信頼の新しい人間関係ができた時に初めて一緒にやっていける。相互扶助による尊敬と信頼で取り組んでいる。

人は他人の役に立ちたい。その気持ちに民俗、宗教、国境、文化の差はない。援助を受ける側にも、社会の役に立ちたいというプライドがある。発展途上国の医師たちは、他国へ行く資金とチャンスがない。ＡＭＤＡは、多国籍医師団でもって、そうした医師たちにチャンスを与えて、一緒に苦労し、互いに尊敬と信頼という人間関係をつくっている。人間関係こそが世界平和にとって一番大事だと思う。

私たち緊急救援チームは、72時間以内に災害現場に入る。被災者は、自分たちは見放されたくないと思っている。自分たちが見放されたと思った時に絶望状態に陥る。だから、いち早く現場に入って、「あなた方を見放していませんよ」というメッ

「見放さない」メッセージ発信

すがなみ・しげる　1972年岡山大医学部卒。77年同大大学院医学研究科課程修了。同大医学部第一内科、心臓病センター榊原病院を経て、81年に菅波内科医院開業。2001年9月、公設国際貢献大学校設立と同時に校長に就任、07年4月より名誉校長。福山市出身。63歳。

セージを送るのである。災害で、家族や財産を失った人たちは、自分たちは見放されたのか見放されていないのかを感じるのである。

1995年の阪神大震災の際、岡山は県民を挙げて救援活動にあたった。人が存亡の危機にひんした時に動くというのが、岡山県の精神。福祉のスピリットが根底にある。私たちは、「西のジュネーブ　東の岡山」と提唱してきた。岡山を世界の人道支援の集積地にという意味である。岡山は規模は小さくても、メッセージ性と受け入れ準備があれば十分、実現できると思う。

岡山はブランドをつくるべきだ。国際社会の中で、国連と組み、世界の成功している都市と組むことによって、政令都市・岡山を国際都市として世界にアピールすることができる。国際都市として推進条例をつくることによって、県と市が一体となって発信していくべきではないか。

広島や神戸なども国際都市を目指している。岡山が何でアピールするかを考え行動したい。「なぜ、したのか」「何をしたのか」という国際社会に通用するメッセージ性を持つ社会事業家の大原孫三郎を記念する国際シンポジウムを開けば、アジアの人道支援をした人たちが岡山に集うことができ、人脈づくりをしてビジネスチャンスにつながっていくのではないか。

私は車いすに注目している。人間にとって一番大切なのは生きる喜びだ。車いすの人が生きる喜びを感じる都市空間というのはまだない。岡山に車いすで楽しめる都市空間をつくれば、世界に対する福祉のメッセージ、生きる喜びのメッセージを発することにつながる。車いすの都市空間があれば、宿泊もでき、ショッピングも楽しめ、散歩もできる。日本全国から世界から見学も来る。そうすることによって地域振興につながると思う。